

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2011年1月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒732-0811 広島市南区段原2-15-5 <http://www.chuoh-kyouiku.co.jp/>



感情の論理 vol.47 「本音と建前」

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお付き合い下さい。

トヨタのプリウスが史上最高の販売記録を樹立したというニュースが流れました。2010年度は30万台を超え、前年比150パーセント。半年待ち、一年待ちのユーザーが続出しているそうです。ところで、プリウスはなぜ、そんなに売れたのでしょうか。

「それは環境に対する人々の認識が高まったからだ…」と考えるのは一面的です。まあ、ユーザーに質問すると「少しでも環境に優しい車を使用して、自分にも出来る環境保護に貢献を…」と答えるのですが、それは人間の建前の部分。本音は「燃費がいいから」です。ハイブリッド車は、とにかくガソリンを使いません。維持費(ガソリン代)は従来の車と比較にならない。以前の高級車(たいていは外車)は燃費が悪いのが自慢?でした。「いやあ、リッター6も走らなくて…」と優越感に浸って話したものです。しかし、それは高度経済成長の時代の話。

不況下では燃費の良さは圧倒的な訴求力を持ちます。今では「TNP」を低燃費と読ませるコマーシャルが受けています。

つまり、ここでも本音と建前が表裏一体の関係になっています。この二つを同時に満たした商品は必ず売れます。バイクの専門誌に水着姿のモデル(もちろん、若くて綺麗な女性)が登場するのも同じ理由です。

さて、塾を利用する人の本音と建前は何でしょうか。その考察が塾発展の鍵です。

以前も指摘しましたが、中小・個人塾の中には、「当塾は成績を上げることが目的とした塾ではありません」と堂々と主張するところがあります。では、何を目的とするかと言うと、「将来、

困難に直面した時に、それを乗り越える力、いわゆる生きる力を養成することを…」と続くことが多く見られます。それはそれで立派な主張なのですが、それではユーザーの建前の部分しか満たしていません。保護者・生徒の本音は、第一義的に「成績を上げたい」「志望校に合格したい」というところにあります。それを避けて通ったのでは、どんな主張も支持されることはないでしょう。つまり、上記のメッセージは、「確実に成績向上を実現している塾」にのみ効果のあるものなのです。そうでなければ、単に「成績を上げることに自信のない塾」と思われるだけです。

第一義的に成績の上がる塾を目指すことです。そのための努力がベースにあってはじめて、建前(理念)が力を持つことをお忘れなく。

本音と建前は表裏一体の関係です。決して二律背反のものではありません。あなたの提供する「商品(学習指導)」が客の本音と建前の両方をみたしているかどうかを、ぜひ、検証して下さい。バブル景気崩壊後の消費者は、費用対効果について厳しい目を持っています。価値を認めるものには投資を惜しまないが、そうでないものに関しては徹底的に節約します。いわゆる「プリウスに乗って100円ショップに通う人たち」です。ビジネスとして塾経営をしている以上、そうした消費者の変化(動向)と無縁ではられません。

今年一年、あなたの奮闘を期待します。

「教育は人なり」といいますが、塾は人材が命であり、いくら最新のツールを導入し組織改革をしても、一人ひとりの社員の力量がどのレベルに達しているかで勝負が決まります。人材採用や育成、待遇面の工夫などについて、全国主要塾に調査しました。

その一「働く人のモチベーションアップが最優先課題」

「時間講師とパート事務を対象に、生徒や保護者との関わり方についての課題解決やモチベーションアップを目的とした研修を年に数回実施しています。

人事制度の整備、具体的には適正な人員配置と評価（フィードバック文化の徹底）を行うことにより、社員のキャリア開発、モチベーションアップを図っています。

指導力、フロント力の頂点を決めるためのスタッフグランプリを実施し、質の向上とモチベーションアップを目指しています。

中途採用者には、入社後二か月間の導入研修において、模擬授業を中心に実施し、その後は定期的に集合研修を行い、指導未経験者もフォローできる研修体系の充実に努めています」

（東日本E塾）

その二「塾人は、社会人としての意識を高く持ってほしい」

「ベテランも若手もより働きやすくなるように、社内のデータベースを整備し、ノウハウや成功事例などを共有しています。また、年に一回社員大会があり表彰を行っています。教務についてもデータベースで共有に努めており、個人の知を結集して教材づくりに役立てています。

転職者に限らず現場での研修は充実しており、データベースで確認すれば、好きな研修に参加ができます。

若手社員には、もっと社会人としての意識を高く持ってほしいので、身だしなみやマナーなど、子ども相手の仕事だという甘い考えは捨てるように指導しています。それはとりもなおさず、塾業界全体のイメージアップにつながると考えており、一部の塾や予備校の講師が奇抜な髪形や服装、装飾品で授業に現れて、ぞんざいな言葉で学習内容を説明するのは如何なものかと思われま

す」（西日本O塾）

その三「テレビ会議システムで意思統一とベクトルの一致を図る」

「入社前研修では、月一回一泊二日、社会人としての考え方、塾の歴史、教室運営について研修し、模擬授業に特に力を入れます。

個別指導に入る学生アルバイトについては、通常より早いタイミングで説明会、懇親会を行い、優秀な人材の確保に努めています。

年末の研修会後には忘年会を実施。研修自体もゲーム的要素を入れ、通常とは違う雰囲気を実施しています。

テレビ会議システムを導入し、毎週毎週、全社員に社長からのメッセージを伝え、意思統一、ベクトルの一致を図っています」

（東日本S塾）

その四「昇進後も現場第一主義」

「有能な人材を採用するだけでなく、立候補制度などの積極的な人材登用を行い、やる気のある人材を抜擢しています。昇進後も現場第一主義をとっており、運営と指導と両方に長じている校舎責任者が年々増えています。

仕事だけでなく終日も充実させなければ、良い仕事もできないし、家族も満足させられないと考えており、社員保養所は全国数か所に設けて、社員が常にリフレッシュできる環境づくりに努めています。

指導法や進路情報などについてはつねにオープンであり、自分が開発した指導法や入手した進路情報について社内で披露するのは当たり前となっています。教育理念や指導技術もネットワークシステムにより社内で共有しており、上位者がスキルを徹底指導して、下の人を上に引き上げることが日常的となっています」

（東日本N塾）

その五「地域一番塾は、地域の優良企業でもある」

「高校部に全国共通のツールを導入しました。大学受験は全国区であり、受験指導だけでなく進路指導や大学の情報が大事ですから。

合宿や講習では、特に生徒をその気にさせることを重視し、教師自身のモチベーションもアップさせるように仕組んでいます。

地域一番塾は同時に地域有数の優良企業であることをアピールし、どこでも通用する人材育成と分厚い待遇面がよくわかるように、会社案内やHPで詳細に紹介しています」

（西日本K塾）

人間関係に学ぶ。 第十回

孫文と高野長英
「愛国的エネルギーの発露」

■ 革命に命を捧げて四十年

台湾と中国本土の両方から「国父」と呼ばれ尊敬される孫文は、「大アジア主義」に基づく中国の自由と平等、そして平和を求めて革命活動を続けました。「中山」という号の由来は、孫文が日本に亡命した際に東京の日比谷公園付近に住んでおり、その界隈に「中山」という表札があり、その文字を気に入って「孫中山」と号すようになったのです。また、高野長英を「国家の為に自分を犠牲にする英雄」と解釈し、日本滞在時の別名を「長野高雄」と称したといえます。

孫文は、自らの革命の軍事力を確保するためソ連からの支援を求め、ソ連も、中国共産党により中国人革命家を育成する機関を求める孫文のために、「モスクワ中山大学」を設立しました。

■ 長英逃亡

1839年の「蚕社の獄」で捕まり、永牢を申し付けられた高野長英は、1844年の牢屋敷の火災に乗じて脱獄し全国を逃亡しました。吉村昭著の「長英逃亡 新潮文庫 上下」には、牢屋敷の火災は長英が自ら仕掛けたものと記され、脱獄が計画的なものだったとされています。また、江戸を含めて全国を六年あまりも逃亡できたのは、長英の類稀なる学才と幅広い人脈によるものとしています。

しかしながら、看板を出し、沢山の患者と向き合う医者という職業をしながら、長英が長い間捕まらなかったのは不思議です。いくら顔を薬品で焼いたからといっても、当時の町方の探索は緻密であり、ただただ長英の運の良さが際立ちます。

■ 国家とは何者か？

革命に挫折して日本に亡命した孫文は、国家の危機を訴えたのに捕縛された高野長英に、自分の姿を投影していたのかもしれない。孫文は、鎖国の江戸幕府に痛烈な批判を浴びせた長英の勇気にも感服していました。少しでも時代がズレていれば、長英は本物の英雄になっていたことでしょう。あと数年遅く生まれれば、幾多の英傑たちとともに明治維新の偉

人として称えられたかもしれないのです。

孫文も、袁世凱という怪物さえ立ちはだからなければ、革命を成就し自分の理想とする国家建設も実現したことでしょう。歴史の中には、こうしたちょっとした差で、人物や事件が大きな変化を遂げています。

いったい、国家とは何者なのでしょう？ 宇宙から見れば国と国の境界線など見えません。その境界線は誰がいつどのように決めたのでしょうか？ それを決めたがために、孫文も高野長英も、国家の為に働き、国家の為に身を細めていったのです。

インターネット時代となり、中国ではヤフーとトラブルを起こしていますが、いつまで「国家」として個人の自由を規制していけるのでしょうか。また、このような状況を孫文が見たら、どんなコメントを語るのでしょうか・・・想像すると面白いものです。

◆孫文（そんぶん）＝孫中山（スン・ジョンシャン 1866～1925）◆

清国広東省広州府香山県翠亨村（現・中山市）に生まれる。政治家、革命家で、初代中華民国臨時大総統。辛亥革命を起こし、「中国革命の父」と呼ばれる。号は中山（ジョンシャン）、字は逸仙。中華民国＝台湾でも、中国本土においても国父（国家の父）と呼ばれ、海峡兩岸で尊敬される数少ない人物。ホノルル市で学んで西洋思想に目覚めたが中国に戻され、香港西医書院（香港大学の前身）で医学を学びつつ革命思想を抱くようになり、ポルトガル領マカオで医師として開業した。1911年、辛亥革命を起こし、中華民国を建国したが、袁世凱の独裁により、日本亡命。1925年、「革命未だならず」という一節を遺言に記して北京に客死し、南京に葬られた。

◆高野長英（たかの・ちょうえい 1804～1850）◆

陸奥国仙台藩の水沢領主水沢伊達氏家臣、後藤実慶の子として生まれる。幼い時から蘭書に親しみ、江戸で学ぶ。その後長崎にあるシーボルトの鳴滝塾で医学と蘭学を学び、抜きでた学力から塾頭となった。シーボルト事件では巧みに逃れ、家督も捨てて士分から町人となった。翻訳で暮らしつつ、開明の志のある人たちと「尚齒会」で中心的役割を担った。蚕社の獄では、鳥居耀蔵から「戊戌夢物語」を幕政批判とされ、永牢を申し渡されるが、牢屋敷の火災に乗じて脱獄。各地を逃走し、江戸に戻って顔を変え家族と暮らしていたところを捕り方に襲われ絶命した。